

ちば里山アワードについて

令和 3 年 1 月 1 3 日
千葉県農林水産部森林課

県では「千葉県里山の保全、整備及び活用の促進に関する条例」を制定し、市民ボランティア等が行う里山の保全や利活用等の活動（里山活動）を支援してきました。

この度、里山活動のより一層の促進のため、今年度初めて表彰を実施し、2 件の活動の受賞が決定しました。

1 背景と目的

「里山条例」の制定以降、県の支援もあり、県内各地で里山の景観保全や整備した里山を活用した自然に親しむ体験といった里山活動が盛んに行われるようになってきました。

この度、森林環境譲与税の導入を契機として、団体・企業等が県内で実施している里山活動を表彰し、里山活動のより一層の促進や里山の魅力発信と森林保全の重要性についての県民への普及啓発を図ります。

2 表彰の内容

○ちば里山大賞（最優秀）1 活動 ○ちば里山いいね！賞（次点）1 活動

3 実施結果

○応募：7 月～9 月下旬 応募総数 1 3 件

○一次審査：森林課内で書類審査。二次審査へ進む上位 6 活動を選出

○二次審査：外部審査委員による審査会を開催。

プレゼンテーション、応募書類、市町村意見等により審査

4 受賞活動と二次審査進出活動

○ちば里山大賞：「里やまボランティア入門講座から里やま活動への展開」

（実施団体）松戸里やま応援団と松戸市（みどりと花の課）

（概要）里山保全のボランティア講座を市民（講座修了生）が中心となって企画運営し、講座終了後の受講生の主体的な活動の支援に繋がっています。市民・行政が協働して里山ボランティアの育成を行う県内初の事例で、同様の取組が近隣の市町村にも広がっています。

○ちば里山いいね！賞：「みんなでつくる自然の郷～たろやまの郷へいこう～」

（実施団体）たろやま会

（概要）四街道市の里山保全活動を市と複数の環境団体の協働により行っています。

活動は自然環境保護団体、里山・谷津田の整備管理団体や野外保育を行う団体等、里山をフィールドに活動する様々な団体がそれぞれの得意分野を生かし、幼児からお年寄りまで様々な世代が参加し実施しています。里山の保全に留まらず、里山の利活用や継続的な保全活動の模範となる優良な事例です。

5 二次審査進出活動

○放置竹林問題解決が自然環境改善の自然を生む千葉県から全国へ発信しよう！！

（実施団体）（特非）いすみ竹炭研究会（いすみ市）

（概要）放置された竹林を所有者からの依頼により整備し、発生した竹材から竹炭を作り、林地に還元したり、農地の土壌改良材として利用しています。

○里山整備活動継続が我らの居場所づくりと地域貢献活動を豊かにするよみがえれ里山！つなげよう明日に！

（実施団体）SaToYaMa よくし隊（市原市）

（概要）会員の現役時代の技術を活かして、竹細工や炭焼き、表札等の様々な商品を作・販売し、補助金に頼らず里山保全活動を実施している。地域住民とも頻繁に交流し、近隣の幼稚園・小学校の体験学習の場としても利用されている。

○長柄町ログハウスセルフビルドヴィレッジ化構想

（実施団体）（特非）ふるさとネッツ（長柄町）

（概要）荒廃した杉人工林を整備し、発生した材を柱や梁材に利用するログハウスのセルフビルド体験を都会の人に提供し、人口減少と森林整備を同時に解決しようと活動している。

○中学校里山整備体験学習

（実施団体）里山むつみ隊（八千代市）

（概要）整備された里山の活用のため近隣中学校に森の整備体験（柵作りや伐採木の運搬）を提供している。

ちば里山アワード ちば里山大賞 受賞報告（知事賞）

ちば里山アワード

里山は環境や景観の保全、防災機能などの多面的機能を有していますが、生活様式の変化等により、荒廃や竹林化が進んでいます。そこで、市民活動団体等により里山を保全・整備し、千葉の美しい里山の景観を守っている事例や里山の資源を生かし、地域の活性化に繋げている様な優良事例を表彰し、活動の促進を図ると同時に里山や森林の保全の重要性について普及啓発を行います。

《審査基準》

効果性：活動により、里山の魅力が新たに創造されているか。

また、地域の課題を解決するためのものとなっているか。

独創性：里山の魅力を創造するアイデアや活動を実施する仕組みに創意工夫が見られるか。

持続性：将来にわたり持続的な活動が可能のように、工夫が見られるか。

モデル性・先導性

モデルとなり、他の地域の活動に応用されるなどの波及効果が期待できるか。

現在、広く普及している活動の先導的なものか。

社会性：一般市民の参加や行政、企業、他団体との連携があるか。

テーマ：里やまボランティア入門講座から里やま活動への展開

団体名：松戸里やま応援団と松戸市（みどりと花の課）

里山保全のボランティア講座を市民が中心となって企画運営し、受講生の主体的な活動の支援を行っている。市民と行政が協働して里山ボランティアの発掘・育成を行っており、近隣の市にも広まっている先進的な事例。

《受賞の挨拶》 私たちは、2003年以來18年続けて、里やまボランティア入門講座を松戸市との協働で実施してきました。そこから14の里やま活動団体が生まれ、主として市内の民有林で活動しています。いま、昨年の講座修了生が、新たな活動を始めようとしているところです。今回の応募では特に二つのことを強調しました。

一つは、講座を修了して里やま活動をしている市民が、講座の企画・運営の中心を担っていることです。それが受講生に親近感を与え、修了生による団体の立ち上げにつながってきました。同時に、講座の企画・運営は、新たな里やまリーダーが成長する場ともなっています。もう一つは、すべての里やま活動団体が、緊密に連携していることです。里やま応援団は、コロナの時期を除いて毎月連絡会を開催し、各団体は活動日毎に報告書を発信して、情報を共有してきました。オープンフォレスト in 松戸は、市内の全里やま活動団体が森の所有者団体とともに実行委員会を構成し、松戸市と共催で実施しています。最近では子育てグループなどが一緒に森の体験のイベントを開催するなどの広がりを見せています。これからも里やま講座を続け、貴重な都市の緑を守り活かしていくために、「みどりの市民力」を発揮していきたいと思ひます。

*9月下旬 応募総数13件

*10月28日（水）プレゼンテーション

（二次審査）上位6活動

*1月13日（水）表彰式

ちば里山大賞：松戸里やま応援団と松戸市（みどりと花の課）

ちば里山いいね！賞：たろやま会（四街道市）

千葉テレビ 授賞式映像

<http://matsudo-satoyama.org/mishi/hyoshoshiki.mp4>



ちば里山アワード 授賞式 2021 年 1 月 13 日（水）於 千葉県庁

ちば里山大賞「里やまボランティア入門講座から里やま活動への展開」

（知事賞） 松戸里やま応援団と松戸市（みどりと花の課）

ちば里山いいね！賞「みんなでつくる自然の郷～たろやまの郷へいこう～」

たろやまの会（四街道市）

山武杉の表彰状



県農林水産部流通販売担当部長 石塚様 から授与



ちば里山いいね！賞



賞状授与式会場



報道インタビュー